

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0391500055		
法人名	(株)福伸		
事業所名	グループホームもたい		
所在地	岩手県奥州市前沢区生母字中道3番地2		
自己評価作成日	平成21年10月1日	評価結果市町村受理日	平成21年12月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www2.iwate-silver.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0391500055&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	財団法人 岩手県長寿社会振興財団		
所在地	岩手県盛岡市本町通3丁目19-1		
訪問調査日	平成21年10月15日(木)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームもたいは、ほのぼのしていて、笑顔あふれる事業所です。利用者様同士が助け合い、それぞれの出来る範囲内で、色々な活動をしています。職員は、個々の持っている力を失う事のないように手助けさせていただいております。利用者様達も職員も笑顔で明るく過ごせるようにと日々努力しています。

職員が明るく、元気良く、利用者と向き合って生活しており事業所全体が明るい雰囲気にもなっている。訪問した日は、テラスでは利用者と職員がいっしょになって枝豆もぎをしていた。また、ホールではサトイモの皮むきを楽しそうにやっていた。事業所内は広く、ソファがあちこちに置かれ利用者同士で会話したり、一人で過ごしている状況も見られゆったりと生活している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『理念』を玄関・事務室・ホール等職員の常に居る場所に見る場所に掲げており、日々これに向かって努力しておりますが、ともすると理念に反した行動が見られたりする場合もありますので、互いに注意し合いながら取り組んでおります。	利用者の生活環境を継続させることを根底に置きながら一人ひとりの思いを大切に生活に向けた支援に取り組んでいる。	理念を具現化するためにも、職員でどのように取り組む必要があるのかを話し合い、具体的に年間目標を決めて取り組まれることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事等には参加していただいたりしているが、こちらから、出向く事は未だ出来ていない。今後、公民館の草取り等、出来る事から参加して地域に溶け込んでいければと考えている。	地域の人たちと一緒にの餅つき大会、小学生の鼓笛隊や子供神輿、婦人会の踊りの慰問、敬老会への参加、近隣からの野菜の提供、散歩などを通して地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所の入り口に小さな産直があり、散歩がてらお邪魔したりしながら、利用者さんを少しでも理解していただけるように交流を図っている。また、災害等の避難場所として活用されるよう協力体制を整えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は報告的なもので終わっている傾向があります。如何にしてサービス向上に繋がられるか、今後の課題となっています。	知識経験者、地域住民代表、家族会代表、取締役、施設長、デーサービス所長、グループホーム所長、健康福祉課長で構成されている。2回目の議事録によると家族代表と課長は欠席されている。活発な意見は特になく報告が多かったようである。	市役所関係者、家族会代表、地域の婦人部長、認知症家族会代表などへの参加を呼びかけ参加して頂くことで、参考になる意見が更に貰えると思われる。呼びかけ等に期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	先日、実地指導がありました。当施設の問題点や今後の指針についても指導して頂きました。今後は良い協力関係を構築していきたいと思っています。	包括支援センター職員、長寿社会課職員などを窓口にして協力関係が取られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所全体でサービス向上運営委員会を設置しそれぞれの課題に向けたワーキンググループを作り、身体拘束や虐待に関してもマニュアル作成や事故予防について定期的に検討している。	施錠は夜間だけで日中はされていない。見守りに力を入れて、取り組まれている。マニュアルづくりにも取り組まれている。	

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所全体でサービス向上運営委員会を設置しそれぞれの課題に向けたワーキンググループを作り、身体拘束や虐待に関してもマニュアル作成や事故予防について定期的に検討している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	個々には勉強している方も居りますが、事業所として、そのことについての研修会は行っていませんので、今後実施したいと思います。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十二分に説明を行い、家族様の不安を解消できるようにと努めております。今後も継続していきたいと思っております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が来所された時等意見を伺うようにし、何か不満があった時には、意見を十分伺い、改善できるように努めております。今後も継続していきたいと思っております。	ご家族が面会に来た時に、ご意見を頂くように努めている。また、玄関に意見箱が設置されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度は職員会議を開いておりますので、施設長や代表が職員の要望や意見を聞く機会には設けられていると思っております。	毎月開かれる職員会議には、管理者も出席し、職員から意見や要望を聞いて運営に反映させることに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部での研修会等を行い、また、外部研修会にも参加できるような体制を現在構築中です。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	今はまだ出来ていませんが、これからは出来るようにと考えています。			
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回の面接時及び日常的に本人の要望を伺い、出来るだけ希望に沿って支援が出来るように努めています。今後も継続して行きたいと思っています。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回の面接時及び来所された都度ご家族の要望を伺い、出来るだけ希望に沿って支援が出来るように努めています。今後も継続して行きたいと思っています。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者及びご家族との話し合いの上で必要なサービス提供に努めています。今後も継続していきます。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	これで良いのだろうか、といつも考えながら利用者さんとの関わりを持っていますが、利用者さんの出来ないことは手伝い、私たちに分からないことは教わりながら、を念頭に支援しています。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	中には家族の事情によって、月一の通院以外は訪ねて来られない方もありますが、最低限の関わりだけは絶やさないようにお願いしてあります。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の希望により馴染みの美容院へ行ったり、親戚や友人に訪ねて頂ける様にお願しておりますが、認知症状の進行に伴って、友人を忘れたり親戚を忘れたりするので、遠くなっていきます。	利用(入居)前に利用していた美容院を訪問している。また馴染みの友達や場所について利用者話し合い関係支援の継続に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	最近になって、利用者間にそういう関係が芽生えてきていると思います。事故のないように見守りながら今後も支援できるようにしたいと思います。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約時にそういう類の言葉で説明していますので、直面した時には、支援できるように努めたいと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の性格もあるので希望を言わない方もありますし、聴いても本筋から離れている答えを言われたりする場合がありますが、そういう場合は、自由に暮らせるように見守りを行います。	思いや希望等をなかなか表出してくれないので、それぞれの生活の場で話しかけ、利用者の思いを聞き取り、利用者の意向に沿えるような支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	全てとは行きませんが、なるべく把握できるように努めております。今後も継続出来るようにしていきます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	色々な作業をする中で発見があります。そんな時は驚きや喜びがあります。小さな事も見逃さないように、喜びに変える事が出来るように努めて行きたいと思います。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の視点で考えていないかも知れませんが、今後、検討し見直しをかけて行きたいと思えます。	ご家族から聞いていることや、本人の状況を把握した上で、職員の意向を取り入れながら介護計画の作成やモニタリングに取り組まれている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録はしていますが、介護計画の見直しに活かしていけるように(記録の仕方等)努力が必要です。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診の際は、ご家族の協力を頂いております。 緊急時やご家族がご高齢であったり、協力が得られないような場合にはホーム側で対応しています。	本人やご家族の希望を大切にしながら、かかりつけ医との連携を図り、適切な医療を受けられるように支援している。受診の際は、ご家族同行が原則であるが、出来ない場合は施設で同行している。予防注射は、協力医がホームに往診していただき、対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	自分の他(自身もナース)に他事行所(同敷地内)でホーム兼務のナースが居りますので、私が不在の時はお願いして、異常の早期発見が出来るようにしております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	関係作りは出来ていると思います(自分が数ヶ月前まで居宅の担当でしたので、今までの付き合いがあります)。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアを検討中です。 今現在は、病院等への紹介で対応しております。	重度化や終末期に向けた対応については、検討されている段階である。	本人やご家族との話し合いをもって意向に沿った対応が出来るように取り組んで欲しい。同意書の作成、協力医の確保、マニュアルづくり、職員研修などの取り組みが考えられる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に行っているわけではないので、今後、定期的に行えるように検討が必要です。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練は年2回行われております。また、火災等生じる事がないように十分注意しております。近隣住民の協力を得られるように講じています。	消防署の協力を受けて、避難訓練や消火器の使い方などの訓練を年2回実施している。10月の訓練には近隣住民の参加を予定している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、言葉使い等に留意しておりますが、時折、理念からかけ離れた対応(言葉遣い)を眼に耳にする事があり、もっと職員の理解を深める努力が必要だと感じております。	時々大きな声で話しかけることもあったので職員で話し合い、言葉遣いや接遇などについて、プライバシーを損なわないような支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事も自分の意思で決めて頂く様に、自分で考えて決断できるように介護者は仕向けていると思います。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共通して何かを行う場合もありますが、大方は自分なりの暮らし方で生活をしていただき、職員は見守りをしております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容院へ行きパーマをかけたり、お化粧をしたり、本人の希望に応じて支援できるように心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好みについては中々伴わないこともあります。食べていただけるような工夫をしております。また、調理は職員と一緒にいたり、外食などもたまには行ったりしています。	サトイモの皮むきや枝豆のもぎ方をしていた。調理から後片付けまで職員と一緒に楽しそうにやっていた。職員と利用者が同じテーブルを囲んで楽しく食事することも大切にされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々によって飲食量が違いますので、個々の適量を把握して、食事や水分補給に努めております。個々に運動が行えるように支援しています。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアを自分なりに行って頂き、その後職員がチェックして磨き残しや、義歯の確認を行っています(誤嚥性肺炎の予防に努めています)。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	声がけを行い出来るだけトイレでの排泄が出来るように支援しています。自立にはほど遠いと感じています。	排泄パターンや言動を把握し定期的に声がけを行うなど利用者に合わせた支援に努めている。自立に向けた支援が功を奏し、日中は、オムツを外している利用者も出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	若い頃からの習慣で、強度の便秘の方がいらっしやいます。また、便が出たことも分からないので都度、確認が必要です。運動療法を行い、最近では排便があった事を少しですが、分かるようになってきています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ホームに入るまでの間、在宅サービスを受けていた方が多く、本人の夜に入りたいという希望は、今の所なく、私たちの決めた時間での入浴介助を行っています。	一日おきで午後入浴になっているが、楽しんでの入浴になっている。デイサービスを利用されてきた利用者が多く日中の入浴には慣れている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床も就寝も本人の思いに任せております。午睡に関しても一応勧めますが、寝ても起きていても本人の自由となっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情を常に皆が見れるところに置いて、皆がそれぞれ理解できるようにしております。状態の変化に気付き、家族と医師への情報提供も行っております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴を基本にレクや行事を考えていますが、中々個々に沿った支援は今まで出来ていなかったと思われます。今後の課題です。		

岩手県 認知症対応型共同生活介護 グループホームもたい

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出は出来るようにしていますし、家族さんの協力も頂ける場合もありますが、希望を伺っても連れて行ってくれるならどこでも良いと言われます。どうすれば引き出す事が出来るのか、これも課題の一部です。	毎日、散歩できるように支援されている。広いベランダもあり自由に出て日光浴が出来る。プラザイン、康梅館公園、厳美溪などにドライブし、楽しめるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人の方を除いては、自分でお金を持っている方は居りません(その方も小銭程度です)。他の方々は外出時に小物を購入するのが楽しみの様です。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけた等りの支援をしています。希望は頻繁にはありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	汚染を見つけたらその都度清掃をしています。利用者も介助者も気持ちよく利用できるよに努めています。ただ、殺風景になっていますので、何か検討したいと思います。	静かで、明るく、広く、ソファも要所要所に置かれゆったりと過ごせるつくりになっている。季節の花や行事の写真も飾られ、居心地の良い空間づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下や共用空間の所々に腰掛があるので、気の合う仲間とだったり、一人だったり、それぞれの思いで自由に過ごせていると思います。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の希望にて馴染みの物を持ち込んで頂いておりますが、今の所、大きい物はどなたも持ち込みはありません。自分なりの馴染みの物があればそれなりに落ち着いていると思われます。	居室にはベットが置かれ、テーブルセットが持ち込まれている。部屋はきれいに掃除されている。写真や作品は、居室の壁に貼られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの分からない方には張り紙をする等して分かるような工夫をしています。また、わかっていたらできるように、都度トイレ誘導を行っています。		